

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 特別支援教育 第152号

- 幼, 小, 中, 高, 特別支援学校対象 -

平成20年10月発行

### 障害のある児童生徒の主体的な活動を引き出す 交流及び共同学習の進め方

近年、小・中学校、特別支援学校における交流及び共同学習は、特別活動、総合的な学習の時間をはじめ、音楽、体育（保健体育）、図画工作（美術）などで積極的に実施されている。

しかし、共同及び交流学習の際に、障害のある児童生徒が主体的に活動できる場が十分に設定されていないという現状が見られる。その背景に、目標や評価が明確でない、年間を見通して計画的に実施されていない、関係者の共通理解が不十分であるなどの課題が考えられる。

障害のある児童生徒の主体的な活動を引き出す交流及び共同学習を展開するためには、目標の明確化、計画的・組織的・継続的かつ弾力的な授業の実施、有効性に関する評価、関係者の共通理解が重要である。

そこで、本稿では、障害のある児童生徒の主体的な活動を引き出す交流及び共同学習の進め方について述べる。

#### 1 交流及び共同学習の意義

障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習は、障害のある児

童生徒の社会性や豊かな人間性をはぐくむ上で重要な役割を担っている。また、障害のない児童生徒が、障害のある児童生徒の理解と認識を深めるための機会でもある。

#### 2 年間指導計画の作成

交流及び共同学習を計画的・組織的・継続的に実施するためには、年間を見通して指導計画を作成する必要がある。

##### (1) 目標の設定

通常の学級の教育目標と特別支援学級に在籍する児童生徒の個人目標を踏まえて交流及び共同学習の目標を設定する。

##### (2) 活動場面・内容の設定

障害のある児童生徒が主体的に活動するために有効な活動場面・内容を検討する。活動場面は、質的な違いにより次の四つに整理できる。

- ア 給食や清掃場面など日常生活の活動
- イ 運動会や卒業式などの学校行事
- ウ 交流会や触れ合い活動、相互理解をねらいとした学級活動や総合的な学習の時間、道徳
- エ 各教科等の授業

次に、それぞれの活動場面の利点を生かしながら有効な活動内容を検討する。その際は、次の点を考慮する。

- ・ 対象の児童生徒のよさや得意なことを生かすことができるとともにお互いのよさに気づき、認め合える内容
- ・ 対象の児童生徒の社会性の育成が期待できる内容、また、通常の学級の児童生徒の豊かな人間性の育成に役立つ内容
- ・ 児童生徒が協力したり助け合ったりして集団で活動できる内容
- ・ 児童生徒が達成感や成就感を感じることができる内容

(3) 参加形態・時間割の編成

児童生徒が主体的に活動するためには、年間を通した参加形態が効果的であるが、単元・題材を選択して参加する、得意な活動に参加するなど児童生徒の実態や特性を考慮しながら参加形態を弾力的に工夫することも必要である。

また、交流及び共同学習を計画的・組織的に実施するためには、学年・全校の時間割を視野に入れながら、通常の学級と特別支援学級の担任で時間割を照合し調整を行うようにする。その際、生活単元学習や作業学習など特別支援学級で実施する授業の時数確保に努める。

(4) 指導及び支援に関する共通理解

一般的な障害特性にとどまらず、対象となる児童生徒の認知特性に応じた学び方や具体的な指導及び支援、自己葛藤場面での対応などを共通理解する。

(5) 年間指導計画作成の流れ  
交流及び共同学習の年間指導計画作成の流れを図1にまとめる。

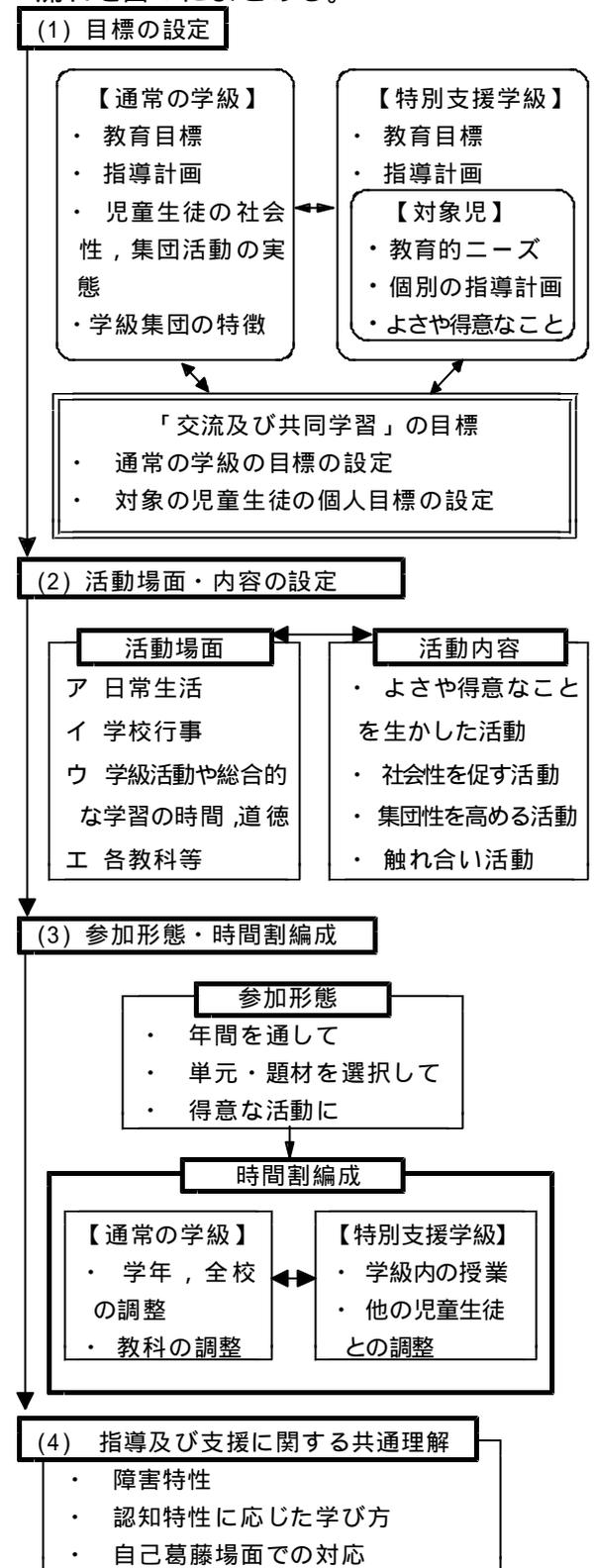


図1 年間指導計画作成の流れ(例)

### 3 主体的な活動を引き出すための展開

#### (1) 学習環境への配慮

ここでは、知的障害、情緒障害・自閉症の特別支援学級に在籍する児童生徒に対する学習環境への配慮を述べる。

- ア 所属意識をもつことができる工夫
  - ・ 座席，ロッカー，名札など
- イ 活動に見通しと安心がもてる工夫
  - ・ 活動内容，時間などの事前予告
- ウ 注意集中や感覚過敏への対応
  - ・ 座席の位置への配慮，刺激の統制
- エ 指示や説明の工夫
  - ・ 視覚的な手がかりなどへの配慮
- オ コミュニケーションが成立するための工夫
  - ・ グループ編成と話し合い活動への参加の促進

#### (2) 支援の形態

特別支援学級と通常の学級の担任が役割分担することで次のような支援の形態が想定される。

- ア 児童生徒のみが参加し通常の学級担任が支援
- イ 特別支援学級の担任が付き添い個別的に支援
- ウ 特別支援学級の担任と通常の学級の担任によるチームティーチング
- エ 特別支援学級の担任が授業を担当し，通常の学級担任が特別支援学級の授業を担当

支援の程度は、対象の児童生徒の実態や通常の学級の児童生徒とのかかわりの状況を踏まえ、両方の担任で確認する。

#### (3) 児童生徒の理解促進

交流及び共同学習のねらいは「障害」そのものの理解より、まず対象の児童生徒の個性や良さを理解することが重要である。したがって、学校生活の様々な触れ合いを通して、お互いの個性が分かり、接し方が理解できるようにする。そのた

めには、教師がかかわりのモデルを示す関係を促進する 障害理解の学習を導入する 関係を見守るなどのかかわりのプロセスを踏まえながら理解を促す。

#### (4) 保護者への理解啓発

児童生徒の学習とともに、通常の学級の保護者に対しても理解啓発を進めることが望ましい。その際は、個人情報と人権に十分配慮しながら本人・保護者の同意を得る必要がある。

##### 取組例

- ・ 学校だよりや年度初めの保護者会などでの交流及び共同学習に関する基本方針や計画の説明
- ・ 交流場面の授業参観の実施
- ・ 学年・学級だよりでの学習の報告 など

### 4 目標に対する評価

学習したことが確実に定着するためには、個人目標の達成状況、評価の引継ぎに関して、担任、担当者間での連携が重要である。そのために、通常の学級の担任からの状況の聞き取り、記録の引継ぎを確実にを行う。

通常の学級の授業において十分な定着が図られていない場合は、特別支援学級で個別的な指導を行う場合もある。

#### (1) 相互理解をねらいとした学級活動や総合的な学習の時間の評価の観点

- ・ 学級活動や総合的な学習の時間の学習のねらいの達成状況はどうか。
- ・ 相互理解がどのように進んだか。

#### (2) 各教科等の評価の観点

- ・ 教科等のねらいに照らし合わせて学習の到達状況はどうか。
- ・ 個別の指導計画のねらいに照らし合わせて到達状況はどうか。

5 小学校の特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の実践例

[ A 児の実態 ] 特別支援学級の 3 年生，男児。ソーシャルスキル学習を重ね，特別支援学級の友達と順番やルールを守ってゲームで遊ぶことができつつある。一方，通常の学級の友達と遊びたい気持ちはあるが，大きな集団の場での気持ちのコントロールや誘いの受け入れに課題があり，適切にかかわることができない状況が見られる。

[ 通常の学級での様子 ] 昨年，個別的配慮に対して，「A 君だけ」等の発言が聞かれた。そこで，「得意なこと，苦手なことを知る」等，自分や友達を見つめる学習を設定した。その結果，A 児を学級の仲間として受け入れ，かかわり合いが深まってきている。しかし，A 児の気持ちに沿った誘い方をしなかったり，ルールを守らないことをきっかけにトラブルが生じたりすることがある。このような状況を踏まえ，次のように年間指導計画を立て実践した。

(1) 交流学級の目標と A 児の個人目標

学 級 年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の考え方や感じ方の違いを知り，認め合う。</li> <li>A 児と遊んだり協力したりする活動を通して，誘い方やルールの伝え方を知る。</li> </ul>
A 児の 個人目標 [ 社会性 ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>小集団の中でルールや順番を守りながらゲームをすることができる。</li> <li>「ごめんね」，「ありがとう」などかかわり合いに必要な言葉を伝えることができる。</li> <li>友達と協力して自分の役割を果たすことができる。</li> </ul>

(2) 日常生活場面での触れ合い活動

S 教諭：通常の学級担任

場 面	活動の設定と目標	支援者	個人目標との関連	特別支援学級での学習
掃 除	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムがなったら友達の誘いを受け入れ，特別支援学級と 3 年 1 組のゴミを捨てに行くことができる。</li> </ul>	特別支援学級担任	自己コントロール 誘いの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ捨ての手順</li> <li>燃えるゴミと燃えないゴミの分別</li> </ul>
昼休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 年 1 組の友達と一緒にボードゲーム，トランプをして遊ぶことができる。</li> <li>チャイムがなったら遊びを終了することができる。</li> </ul>	特別支援学級担任 S 教諭	ルールの遵守 共同活動 誘いの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルスキル学習</li> <li>遊びスキルの獲得</li> <li>スケジュール提示</li> <li>がんばり表</li> </ul>
給 食	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱を持ってもらって牛乳を配るなど友達と協力して配膳をすることができる。</li> <li>おかわりの時に譲ることができる。</li> </ul>	S 教諭	協力活動 自己コントロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 対 1 の対応（算数）</li> <li>ソーシャルストーリーを使った気持ちの理解</li> </ul>

(3) 教科等の活動場面・内容

	国語	算数	音楽	図工	体育	特別活動	総合的な学習の時間
特別支援学級 通常の学級 担 当 者							
学 習 内 容			教科担当 器楽演奏に ついては個 別で指導	S 教諭 共同制作で はかかわり を促進	S 教諭 個人種目は単元 により参加 団体種目は配慮	特別支援学級担任 年間を通して 参加	S 教諭 触れ合い活動 の単元のみ参 加
テスト実施							

障害のある児童生徒の主体的な活動を引き出す交流及び共同学習の展開のためには，学校生活の様々な場面で，児童生徒が自分のよさや得意なことを発揮できるよう，活動内容，学習環境を工夫することが重要である。そのためには今後，特別支援学級と通常の学級の担任が連携しながら目標と評

価の明確化，年間を見通した年間指導計画の作成，時間割編成，児童生徒の特性に配慮した学習環境の工夫などの取組が求められる。

[ 参考文献 ]

文部科学省 『交流及び共同学習のガイドブック』 2008  
大南英明編 『交流及び共同学習への取り組み』 2007  
全国特別支援教育推進連携『よりよい理解のために「交流及び共同学習事例集」平成19年

(特別支援教育研修課)